

## 27 家鶏卵黄囊に於ける造血

(コンドリオソーメン研究報告第二)

高 木 俊 藏 (名古屋)

胚期血球分化に伴ふ「コンドリオソーメン」の態度は、血球分化系統の研究上意義あるのみならず、他の細胞學的諸性質と對比して興味深いものがあるが MEVES 氏が鶏胚で赤血球の系列のみにつき観察した報告あるのみである。

鳥類に於ける胚期造血は卵黄囊に止らないが此處では最初の造血が行はれ且徐々に分化が起るので研究には最も適してゐる。しかし「コンドリオソーメン」検出を目的とする此器官の固定は甚だ困難で余の経験では MEVES 氏液が最良の結果を與へたが、これも孵卵第五日以後は成功せぬ。

由來血球の命名法は甚だ錯雜してゐるが、こゝには清野及び勝沼氏のそれによることとし、また便宜上「コンドリオソーメン」に對して以下絲粒の語を用ひる。

當初卵黄囊の「メゼンヒム」細胞は數多の突起を有する不規則形細胞であつて、大なる核とその中に一個の仁を有する。細胞質中には大小の卵黄粒、脂肪及び類脂肪顆粒を含んでゐる。絲粒は多くは絲狀であるが桿狀或は粒狀のものも混じ其の配布は不規則である。

**造血第一時期** (1)「エムブリオ」が長さ原條を有するも未だ頭突起を有せざる時期に於て「メゼンヒム」細胞の増殖により既に血球内皮原基を生ずる。相壓迫せる多角形細胞群で一個の核と 1-3 個の仁を有する。絲粒は總じて長い絲狀で細胞質中到處に分布してゐる。(2) 7-10 個の體節が生ずる頃になれば、上記細胞群中の中心部に位するものは遊離して原始血球 primitive Blutzellen となる。絲粒の形狀は前と變らぬが多く細胞の一端に集り他端に乏しい。

**造血第二時期** 此時期は 14-18 體節を有する「エムブリオ」時期に始る。

(1) a. 血管腔内原始血球の大部分は原始「エリトロブラステン」 primitive Erythroblasten となる。細胞は圓形或は不正圓形、核は圓形にして仁は 1-2 個である。絲粒は長さ絲狀、細胞質中に略一様に分布する。このものから原始赤血球を生ずる。b. 原始血球の一部は類淋巴球細胞 lymphoite Zellen となる小形の細胞で時に原形質突起を出す。核は大、1-2 個の仁を有す。絲粒の配布は原始血球に似るが、形はより短いものが多い。c. 原始血球の一小部分から類組織球細胞 histioide Zellen を生ずる。強大なる原形質突起を有することあり。核は通常細胞の一端に位して 1-2 個の仁を有する。絲粒甚だ多く絲狀で長さもの短きものを混ざる。食細胞現象が著しい。(2) 管壁細胞は血球内皮原基

の外層細胞より生ずるもので、原始内皮 primitive Endothelien とよばれる。絲粒は長い絲狀で核の両端に多い。この細胞は時々遊離して類組織球細胞となる。(3) 血球内皮原基の中、最外層に取り残されたものは、増殖して所謂物質島嶼の細胞を生ずる。此處には多数の類淋巴球細胞と少数の類組織球細胞を生ずる。

**造血第三時期** 孵卵第三日終より第五日に至つて著明となる。(1) a. 類淋巴球細胞から恒久性「エリトロブラステン」definitive Erythroblasten を生ずる。絲粒は原始「エリトロブラステン」と差異なきものと信ず。b. 類淋巴球細胞は此時期には漸次小形のもの多くない、大小種々の淋巴球を分化す。核網は太くなり仁は不明瞭となる。絲粒は類淋巴球細胞に依るも量に於て劣る。c. 「trombozyten」Thrombozyten は類淋巴球細胞の小形のものから生ずる。核は淋巴球より小さく核網はより強大、仁は分明せず。絲粒は淋巴球に類するがより小量である。(2) 血管腔外に絲粒の特別な配布を有する細胞を見る。「ミエロチーテン」に相當するものと信ずる。

前述の如く孵卵第五日以後の卵黄囊の固定は至難であるから、第三時期の研究は尙不充分である。此時期の研究の完成と論議は總て後日にゆづる。

(質問) 1. Mesenchymzelle の Anlage は Lacerta の研究にも明かな如く Mesodermzell なり。Vogel はその進化せるものなるため勿論 Blutzeile は Mesoderm に Anlage を要すること、萬澤氏の説と同様なることを信ず。  
(犬 飼 哲 男)

2. 演者の所謂 zweites Stadium の原始内皮細胞と他の血細胞との關係。

(市 川 純 彦)

(應答) 1. 家鷄では血島嶼は Mesenchymzellen より生ずるものと信じますが更に考慮します。

2. 血島嶼の外側の細胞と原始内皮との間には連續的移行型あり「コンドリオソーメン」に就いても同じであります。  
(高 木 俊 藏)

## 28 蠶の消食管の組織學的研究

### 特に中腸被膜細胞の二型に就いて

川 口 榮 作 (福 岡)

鱗翅目の幼蟲に於ける中腸の組織學的觀察に際し其被膜細胞に於て普通の圓柱狀細胞以外に盃狀細胞が見られる。この細胞の本態に就いて二の異説が行はれて居る。即ち是等兩細胞は本來同一で只單に異なる活動相にあるものに過ぎないと云ふ一元説と、是等は生理的にも全く異なる別種のものであると見做す二元説である。演者は蠶を材料にとり其各令の食桑期中分泌現象の前後に於い